

「もんかぐみ」

「わたしはすみれぐみさんだよ。おとうさんはなにぐみさんになるの〜？」

4月から幼稚園に正式に入園した私の3才の娘は、私が新たな環境に身を置くことを薄々感じていたのか、真新しい幼稚園の制服を着て意気揚々と私に質問してきた。

出向元の市役所で普通の職員の異動の内示とは違うタイミングで、派遣元の教育長から文部科学省への異動の内示を受け、心の準備ができておらず、動揺していた私は、娘からの質問に即答することができず、答えをはぐらかしていた。

市役所に入庁してから6年間のうち、教育委員会に在籍していたのは2年間だけであり、まさか自分が【虎ノ門】で、【文部科学省】で、働くことになるとは思ってもいなかった。

子どもの入園も大変だが、大人の転園？転職？もなかなか大変である。

正式入園に向け、少しずつ幼稚園の慣らし登園を始めていた娘は、お母さんとの別れや環境の変化に悲しくなってしまうのか、一人で幼稚園バスに乗る時、泣きじゃくっていた。だが、たった数回の登園ですっかり慣れ、今は幼稚園のインスタグラムには楽しそうな笑顔や、ダンスを踊ったりする姿、砂場で遊ぶ姿が投稿されている。

一方の私は、これまで作ってきた人間関係は全くのゼロからスタート。同僚は誰も知らないし、誰が何を担当しているのかわからない。そもそも何の仕事があるかもわからない。仕事に使っているシステムも違う。仕事のルールもわからない、すべてがさぐり探りの状態で戸惑いしかない毎日だ。

特に一番大変なのは通勤である。今までの3倍、片道1時間半以上の時間がかかる。

また、勤務時間自体が1時間遅くなったため、以前は夜ごはんを一緒に食べることができていたが、私が帰る時間には、子供たちはすっかり熟睡しており、かわいい寝顔を見る生活になった。以前よりも子どもたちと過ごせる時間は格段に短くなってしまった。

けれど、文部科学省での経験は誰でもできることではないし、きっとかけがえのない経験を得ることができるだろう。

新たな人との出会いや、圧倒的に広い視点で業務を見ることができる。仕事の価値観もすでに変わりつつある。

これから娘がとてつもないスピードで、年中・年長へ成長していくのに負けられないように、私も日々の生活を丁寧に過ごしていきたい。そして、今度娘に、「お父さんなにぐみさんなんだっけ〜？」と聞かれたら、「お父さんはもんかぐみさんだよ。」と自信をもって答えたい。

（現在7カ月で体重が10キロを超えている息子の成長スピードも、3歳の娘に負けず劣らずとんでもなく早く、驚く日々である……。子供たちに負けられないように私も頑張らねば。）

(N.T)

